

## ワクチンの実態 II.

ワクチンは少なくとも中学生以後に海外旅行とか土木建築関係者、妊娠、高齢者などに必要と思われた時に受ける。例えば、破傷風、麻疹、風疹、肺炎ワクチンなどです。いずれにしても、ワクチンの実態を知るべきで自分の身は自分が守る必要があります。

### ◆ワクチンの副作用 (学術的立証済と一部は医薬品の添付文書に記載済)

- ・ 関節炎、出血性障害、血液凝固、心臓発作、敗血症
- ・ 耳感染・失神・透析療法を必要とする腎機能障害
- ・ てんかん・じんましんやアナフィラキシーなどのアレルギー反応
- ・ 突然死

### ◆ワクチンの成分の有害 (ワクチンにはいろいろな化学物質が含まれている)

- ・ 水銀(インフルエンザ・ワクチンや他のワクチンにも、微量の水銀が残留している)
- ・ アルミニウム(骨、骨髄、脳の変性を起こす可能性のある毒です)
- ・ 猿、犬の腎臓(その他鶏、牛、人間の細胞が含まれている)
- ・ ホルムアルデヒド(防腐液)(発ガン性物質として知られています)
- ・ ポリソルベート 80(ネズミにおいて不妊症や睾丸の萎縮をひきおこす)
- ・ 豚や牛のゼラチン(3種混合(はしか、おたふく風邪、風疹)、水疱瘡・帯状疱疹に大量に入っていてアナフィラキシー反応を起こす。)
- ・ グルタミン酸ナトリウム(MSG)(吸引タイプのインフルエンザ・ワクチンに含まれて、糖尿病や神経障害をひきおこす)
- ・ スクワレン(免疫補助剤で、不妊化作用が疑われ、男性は精子異常を来す)
- ・ ステルス・ウィルス(動物細胞に感染したウィルスで発ガン作用が疑われる)
- ・ DNA や RNA の断片(感染したマイコプラズマや細菌由来のものでヒト細胞内の作用は全く未知である)

### ◆子どものワクチン接種/未接種の比較 (子どものワクチンに特に注意)

カリフォルニア州とオレゴン州で、子供を持つ親を対象に、ワクチン接種/未接種を比較した調査。対象数は17,674名(男児が危険)の結果は以下の通りです。

- ▼ワクチンを接種した子供のぜんそく罹患率は120%増
- ▼ワクチンを接種した男児のADHD(注意欠如・多動性障害)罹患率は317%増
- ▼ワクチンを接種した男児の神経疾患罹患率(痙攣、失神、ギラン・バレー、多発性硬化症、急性散在性脳脊髄炎)は185%増
- ▼ワクチンを接種した男児の自閉症罹患率は146%増